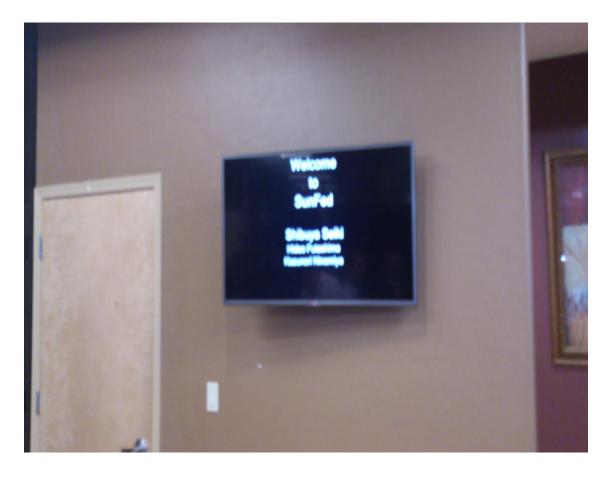
<u>TPPへの胎動/予兆</u> ~NAFTA後の米国・メキシコ出張より~

平成28年6月22日 シブヤ精機(株) 常務取締役 営業統轄副本部長 二島 英郎





昨年9月から10月に掛けメキシコ・米国に出張



メキシコはNAFTA後米国・カナダの農産物供給基地としてインフラの近代化が進展中



選果施設(PHC)は現在労働集約型であるが、市場要求により機械化の潜在性が拡大。自動化は日本が先行するも、品質管理は準食品産業レベル:GGAP、HACCEP





等階級選別が急速に高度化しつつある。左がAクラス・右がBクラス。



保冷庫はオゾン発生装置付きで、出荷調整が品質管理とともに実施されている。米国アリゾナ



4000ha,経営規模で1500~800名を雇用。写真はスカッシュ畑、15品目の輪作。



収穫は人手での収穫。



一棟4haのハウスを15棟併営。本写真は高設栽培(4mレベルまで収穫)



高下駄のような道具を使用し高所収穫・栽培を行う。生産管理は1株単位(1平方フィート)





竹馬様の道具は、サンコスと呼称。管理型 3 D農業的。

農林水産省 国際部 GFVC官民連絡協議会用資料(写真 ©シブヤ精機株式会社) TPP発効後を見越して、対日双方向の農業関連インフラ高度化の需要が高まるものと推測(注:発表者個人の見解)。

- 1. 日本市場向けの農業関連インフラとともに、輸送コストを重視した動きが双方向で活性化する。(陸上の保冷ストレージや選果・梱包、輸送インフラの高度化要求)
- 2. 検疫の条件クリアとともに、流通市場からのニーズとして管理環境の整備(GGAP・HACCEP等)が輸出には必須となるのでは。技術は進んでいても品質管理目線がより重要となる。
- 3. 国内の従来の主流である、低稼働な産地選果・専用選果では、設備 投資への償却負担面を考慮した場合の、国際間競争は厳しい。国内 では輸出入双方向型で物流アクセスを重視する消費地近郊臨海・臨 空型の農業インフラの重要性が高まる可能性。
- 4. 選果・選別後の生鮮品と格外品国産農産物加工原料向けの相対価値 が上がり、インフラ関連業や生産主体ともに、海外市場も合わせ見 る能力(グローバルマーケティング力)が問われる。